

「フジノン 15 cm双眼鏡の宇宙」

桑田直宏

私がフジノン 15 cm双眼鏡（中古）を手に入れることになったきっかけは、書店で見つけた天文ガイド表紙に、世紀の大彗星になるヘール・ボップ彗星の想像図が目にとまったのです。長い間あこがれてきた大彗星を自分の目で見るチャンスが訪れたと直感的に思いました。その天文ガイドの広告に、国際光器がフジノン 15 cmの中古が売りに出ているので、衝動買いをしてしまいました。

この大型双眼鏡が、天体写真に熱中していた私を眼視派に変えました。この双眼鏡の何がすごいかというと、宇宙の広さと深さを自分の目で実感できることです。これまで多くの望遠鏡を覗いてきましたが、淡い天体や彗星を見るという点では、この望遠鏡に勝つ機材はないと思います。天体がこんなにきれいによく見えるとは思っていませんでした。本当に天体写真のように見えるのです。

「デジタルカメラの時代にいまさら眼視？」と思われるかもしれませんが。確かに最新のカメラで撮影された天体はびっくりするくらい良く写ります。しかし、自分の目で見る感動には及ばないと私は思うのです。

15 cmの両眼で見る宇宙は、この望遠鏡でしか味わえない世界に連れて行ってくれるのですが、いくつかの問題が私を悩ませています。

1 つは光害の影響が郊外にも広がり、肉眼で 6 等星が見える最高の星空でないと威力を發揮できないのに、本当に暗い空がなくなってきたことです。播磨自然高原でも条件が良くて 5 等星が見える空になってしまいました。

もう 1 つの問題は、自分の白内障が進み、視野全体が白くもやもやとしてコントラストが悪くなり、若い頃のような天体の美しさが感じられなくなってきたのです。

さらにつらいのは、この双眼鏡を架台に設置するためには、本体重量 17 kgの双眼鏡を両手で頭上に持ち上げ、ゆっくりと降ろしながらはめ込むように取り付けるのですが、暗い中での作業とこの重さに自分の体力がついていかなくなってきたのです。

そろそろ手放そうかと思っていたのですが、つい最近、このフジノンが大幅に値上げされたことを知りました。協栄産業で実売価格 65 万円だったのが 110 万円（税込み）に、架台や三脚と一緒に購入すると 150 万円を超える価格になったのです。こうなったら生涯の望遠鏡として大切に使うことにしました。次回はこれをニュージーランドに持ち込み、南天の天体を堪能することを目標にしています。

